

# 愛媛

松山総局  
〒790-0003  
松山市三番町4-9-6  
NBF松山日銀前ビル  
電話 089(941)0155  
fax (941)0125  
mail:matsuyama@asahi.com

購読のお申し込み  
配達お問い合わせ  
0120-33-0843  
(7:00~21:00)

広告のご用は  
松山 (989)2001  
地域ニュースは  
こちらでも  
https://www.asahi.com/area/

県とスリランカ労働・海外雇用省は7日、農業分野などで協力するための覚書を結んだ。20年余り前に愛媛で学んだスリランカ人の留学生が母国に持ち帰ったミカンの苗木が、両者の関係が発展するきっかけになった。

県などによると、2000年ごろ、愛媛に留学していたスリランカ人の学生から「帰国の際、ミカンの木を持ち帰りたい」と県に依頼があり、苗木を贈った。

その後、県と県国際交流協会が06年度から、県職員らを派遣して技術移転をしたり、スリランカから関係者を研修生として受け入れたりして支援した。

## 農業分野などで協力 県と覚書



農業分野などで協力を図る覚書を結んだ(左から)中村時広知事、ウィマラウィーラ労働・海外雇用省次官、ロドニー・ペレーラ駐日大使＝松山市

このミカンは「ホラナ・えひめ」とスリランカ農業省に品種登録され、今も生産が続けられている。覚書の農業法人に受け入れ、1

を具体化するため、県とスリランカ側は、今夏にも2人ほどの技能実習生を県内の農業法人に受け入れ、1

(神谷毅)

## スリランカと交流 ミカンの縁

年間かんきつ栽培に取り組んでもらう予定だ。

覚書の締結式で中村時広知事は「さらに生産を増やすためにはスリランカから人材が愛媛に来てもらい、様々な経験を積んでもらうことが効果的だ」と覚書の意義を強調した。人口減少や少子高齢化で農業分野の人材確保は大きな課題となっているとして「農業にとどまることなく広がりが出てくれば、お互いにメリットになる」と今後の交流拡大に期待を示した。

締結式の後、スリランカ労働・海外雇用省のウィマラウィーラ次官は「今後、スリランカの若者を大勢愛媛に送りたい。交流が広がることによって、農業の技術だけでなく様々な知識も広げることができる」と話した。

## 「女性初」



春の交通安全運動でパトロール隊に出した多田羅桂子さん(手前)＝高松市



香川県警に採用されて3年後に白バイに乗る多田羅桂子さん＝1998年ごろ、香川県内、多田羅さん提供

## ブラジル↓松山 温暖化対策学ぶ 市役所に研修員7人

ブラジル南部のクリチバ市の研修員7人が、温暖化対策などを学ぶため松山市役所を訪れた。人口約200万人を擁するクリチバ市は近年、気候変動などに伴う洪水や高齢化問題などに直面し、日本がどう対応しているか学ぶことを希望。国際協力機構(JICA)が仲介した。

松山市の担当者は、太陽エネルギー活用で脱温暖化と産業創出を目指す「サンシャインプロジェクト」などを説明。研修員らは「太陽光パネルの普及率は?」「市民はどう受け止めている?」と活発に質問していた。

クリチバ都市計画研究所のリアナ・バリチェリ情報部長は、公共施設の太陽光パネルで発電した電力の相当分を「環境価値」として外部に販売する松山市の

「以前よりも女性警察官が増えた。もうちょっと増えてくれれば、より県民のニーズに応えられるかな」

県警によると、警部以上の女性警察官の数は、22年時点で10人。これは全体の約4%だという。(内海日和)



あいさつするクリチバ都市計画研究所のリアナ・バリチェリ情報部長(中央)＝松山市役所

## 医療法人 村上

「グリーン電力証書」制度に関心を持ったといい、「市民や企業が意識を変えらるきっかけになる」と話していた。(戸田拓)